

〔『法学新報』第33巻1(373)号 大正12年1月1日〕

○中央大学剣道部遠征 質実剛健の校風を旗幟とし燦然たる歴史を有する我中央大学剣道部は道場改築の爲め錦町警察署道場を借用し中山今泉両師範の懇篤なる指導の下に龍攘虎博堅実なる修練を怠らざりしか十一月十一日日本学創立記念日を門出し香取鹿島両大神宮参拝を兼ね千葉茨城両県下遠征を試みたり遠征軍は師範剣道教士今泉來藏先生並に先輩五段萱島操氏の指揮する所にして三段北島辰二同山中規矩二郎同山中惟精二段瀬田隆三同神田透同志村文雄同大澤正同井上綱彦初槍垣達也同帆足夏雄同桑原富藏等の陣容たり左に戦況を記さん十一月十一日午前七時二十分兩國橋駅発列車にて千葉市に向ふ秋色漸く佳なる長郊を賞しつつ談笑する中に八時半千葉駅に着す武徳会支部師範持田盛二氏を始め藤崎三上両氏並に本学柔道部の大木鈴木氏等態々一行を出迎はれたり其案内により直ちに武徳殿に至り小憩後予定に従ひ午前千葉中学に於て約二時間午後二時より武徳殿に於て約三時間に亘り火の出る如き稽古を行ふ前者に於ては中学生約百名後者に在りては千葉医専千葉師範千葉中学警察並に地方有志等の猛者連約三百名と聯々相接し雲集龍鬪す觀衆も亦安達達察警部長を始めとし無慮五百名頗る盛会を極めたり薄暮万菊旅館に軍を整ふ千葉医専千葉中学よりは一行の爲め特

に茶菓を饗せられたり六時より持田藤崎三上大澤小宮山本諸氏主催にて盛大なる歓迎会を開催せられ遠征軍の労を稿はれたり

——十二日朝食を終れば佐倉中学師範加藤久氏には態々来訪あり持田藤崎大澤三上諸氏に駅迄て見送られ七時二十分千葉駅発列車にて佐倉駅下車加藤氏の案内にて佐倉中学に至る竹内校長の厚意により旧佐倉藩に関する古書籍及び印旛沼名産漁具類の陳列を観覧し頗る得る所ありたり十時より三時間中学生徒警察並に地方有志百三十余名と搏戦し終りて昼食の饗応を受け部曲を整頓して成田町に向ふ警察署長加藤氏並に有志の諸氏十数名には駅まで見送られたり午後成田中学に於て中学警察地方有志と稽古をなす予定なりしも 華頂宮殿下当地台臨のため又中学は修学旅行のため共なすことを得ず成田不動尊に参拝折柄開催中の菊花壇を賞し午後五時発列車にて佐原町に向ひ六時佐原駅に着し川岸屋旅館に泊す——十三日早朝佐原中学師範沖氏の紹介により伊能忠敬先生の後裔十六代に当る当主伊能三郎右衛門氏を訪問伊能氏邸の好意により測量日記地図器具等を観覧し綿密明をなる説聴き一行は何れも忠敬先生の熱心と意思の強固なりしに感服せり十時同家を辞去し香取神宮に参拝し午後一時より予定の如く佐原中学に於て中学生警察並に地方有志約四百五十名と剛猛果敢の稽古を約三時間に亘りて行ふ警察置長中学校長等の厚意により万事好都合に取運び四時半川岸屋旅館に引上げ十一日以来励声叱咤自ら陣頭に立ちて諸軍を指揮せられし今泉師範には急用突発の為め遺憾乍ら当地より帰京せらる依りて先輩萱島五段代りて全軍を指揮し五時半当地発汽船に投乗し

旌旗悠々利根川を航し八時茨城県大船津に上陸鹿島町の有力者大川直作大川銀作両氏の懇切なる斡旋により途中恙無く鹿島町吉野屋旅館に泊す十四日午前八時より武神鹿島大神宮に参拝神前に於て龍戦虎闘の奉納試合数十番をなし十一時宿舎に労を慰す鹿島大神宮々司大川直作氏同銀作氏並に土地の劍客宮本氏警察署長等には一行の為め多大の便宜を計られたり午後三時当地発大船津より汽船に投乗六時佐原に上陸七時発列車にて十時半両国橋駅着散会す願ふにこの遠征は初期の計画以上に大成功を以て目的を達するを得たり是れ偏へに各地に於ける有志各位の御厚情の結果と深く感謝す又今泉先生萱島先輩の懇切なる御指導を茲に感謝す(剣道部投)